

美術科学習指導案

日 時 平成16年11月5日(金) 5校時
学 級 室根村立室根中学校 1年A組30名
(男子16名 女子14名)
授業者 教諭 柳 川 千 尋
場 所 美術室

1 題材名 「名画のささやきを聞こう」 B 鑑賞

2 題材について

(1) 題材について

学習指導要領では第1学年の鑑賞の目標を次のように定めている。「自然や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てる。」さらに、第1学年の鑑賞の内容を、「ア 想像力を働かせ、美術作品や児童生徒の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむこと。」と定めている。

上記の目標と内容に基づき、本題材は、美術作品に関する感想の交流や、情報収集、発表活動などを通し、自分と他者の見方、考え方の違いや作品の美的価値などを認め合いながら、美術鑑賞に親しませることをねらいとして設定した。

取り扱う作品は、ダ・ヴィンチ「モナ・リザ」、ムンク「叫び」、ゴッホ「ひまわり」、ピカソ「泣く女」などの、大部分の生徒が一度はみたことがあるという美術作品を集めた。これは親近感・既視感のある作品を並べることで、作品を知らないということからの生徒の鑑賞に対する不安感などを少しでも除くことができると考えたからである。また、今回取りあげた絵画はどれも有名画家の作品、もしくは名画と呼ばれるものであるが、これは画家や作品の一般的な価値基準から離れて自分の見方で鑑賞することで、よさや美しさ、新たな魅力を発見してほしいということから選んだ作品である。

提示した作品の中から生徒それぞれが興味・関心を持った作品を選択し、感想交流や調べ学習などをしていく。この学習を通して、自分の見方で作品のよさや美しさに気付くこと、話し合いの中で感じ方、見方、考え方を磨き合うことが、今後の学習や表現活動への自信を持った取り組みに繋がっていくと考えている。

(2) 生徒の実態について

生徒の学習態度は意欲的である。表現に対する興味・関心が高く、ひたむきに制作に取り組む姿勢がみられる。1学期はスケッチに取り組み、対象をじっくり観察することの大切さを学んだ。2学期の個人マークのデザインでは、一人ひとりが個性的なアイデアを形にした。また、互いの作品を鑑賞し、友達の表現のよさを認め合いながら、自分の制作にいかす姿も見られた。

しかし、他者の発言や考え方を安易にまねる傾向があり、自分の考えを深くめぐらすことが少ない生徒も見受けられる。まずは、一人ひとりが鑑賞の授業を通して自己の持つ感性を自覚し、ものの見方に自信を持たせていくことが重要と考える。また、互いの考えを認め合うことで、誰もが自信を持って発言できるよう学習の雰囲気をつくっていくことが必要だと考える。更に一人ひとりの見方や考え方が授業に反映されるような場面を設定し、個人とグループの活動を組み合わせながら、学習に臨ませたい。

1年生は中学校に入学してから、制作の中で互いの作品を鑑賞することはあったものの、美術作品を取りあげた鑑賞について学ぶのははじめてである。鑑賞に対しては興味を持っている生徒が多いが、その反面で不安がある、よく分からないという印象を持っていた。まずは鑑賞する事の楽しさや魅力を感じさせながら、鑑賞と制作に同等の価値と繋がりをもたせるよう指導していきたいと考えている。

(3) 指導構想について

本題材では、大部分の生徒が知っている画家の作品、有名絵画を集めている。そうした作品を鑑賞し、改めてよさや美しさなどを見つけることで自分の見方、他者の視点に気付き、鑑賞の方法を学ぶことがねらいである。

取りあげる作品については、知らないという生徒や、題名や作者について知っているという生徒まで様々な実態があった。それぞれの作品のモチーフや主題も違うものであるが、今回は一人ひとりが4点の中から興味をもった作品を選んで鑑賞を深めていく。

自由に感じることに加えて、更に深く作品を鑑賞するための要素があることに気付かせ、作品の主題や作者の思い、作品の造形的特徴などについて調べ学習や話し合い活動をしながら鑑賞を深める方法について学ばせたい。また、それぞれの感じたことや調べたことなどの結果をまとめ、全体の場で作品について発表会をすることで、作品のよさや美しさ、多様な考え方についてより一層の理解深めさせたいと考えている。

3 題材の目標

- ・美術作品に関心をもち、作者の心情や意図、表現の工夫などを読み取りながら、そのよさや美しさなどを感じ取る。
- ・他者と意見交換しながら美術作品についての見方を広げ、鑑賞の喜びを味わう。
- ・多様な価値を認め、尊重しながら、美術を愛好する心を育てる。

4 題材の学習計画・評価計画

(1) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
提示された美術作品から特に関心をもった作品を選び、その鑑賞に親しみ、意欲的によさや美しさなどを味わったり作品に対する理解や見方を広げたりしてその喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせ、作者の心情や意図と表現の工夫、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わい、美術作品について見方を広げる。

(2) 学習計画と学習活動における具体的評価規準

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準〔評価方法〕			
		美術への関心・意欲・態度		鑑賞の能力	
1 本時	提示作品を鑑賞して自由な感じ方で作品のよさや美しさなどを味わうとともに興味・関心をもった作品を選択し、新たな発見や課題を見つける。 (作品、学習プリント)	提示された美術作品と興味・関心をもって選んだ作品を、鑑賞することを楽しんでいる。 〔学習プリント、発言、観察〕		興味・関心をもって選んだ美術作品を鑑賞し、自由に感性や想像力を働かせて、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取る。 〔学習プリント、発言、観察〕	
		【Aの判断の例】 作品を意欲的に鑑賞し感じたことを積極的に発言したり記述したりする。	【Cへの手だて】 作品を鑑賞する着目点を与える。	【Aの判断の例】 鑑賞しながら、自由な見方で作品のよさや美しさを多数見つけ、伝える。	【Cへの手だて】 作品を選んだ理由や興味を持った点などを具体的に挙げさせる。
2 ・ 3	興味・関心をもった作品について、前時で見つけた発見や課題をもとに調べ学習や作品比較をし、作品などへの理解を深める学習活動をする。 ・作者 ・主題や表現意図 ・造形的な特徴 など (作品、比較用作品、参考資料、インターネットなど)	選んだ美術作品について、図書館の書籍や資料等を利用して調べ、理解しようとする。 〔学習プリント、観察〕		選んだ美術作品について、作者の思いや造形的な特色など感じたことや調べたことを通して理解を深める。 〔学習プリント、発言、観察〕	
		【Aの判断の例】 様々な資料を利用して積極的に調べようとする。	【Cへの手だて】 調べ方についての視点を与える。	【Aの判断の例】 ・作者の思いや表現の意図を感じ取り伝えることができる。 ・意欲的に調べて学習プリントにまとめる。 ・表現の工夫や造形的な特色などに気づき、伝えることができる。	【Cへの手だて】 ・自分が最も印象に残る部分について考えさせる。 ・調べた結果を箇条書きさせる。 ・作品の比較の視点や調査例などを具体的に挙げて支援する。 ・課題を確かめさせる。
4	発表活動を通じて、新たに発見したことや互いの鑑賞の視点・多様な考え方などに気づき、理解しながら、それぞれの美術作品への理解を深め、よさや美しさを味わう。 (作品、学習プリント)	他者の考え方に関心を持つことで、いろいろな見方や感じ方・発想の仕方など多様な考え方があることに気づき、認め合おうとする。 〔学習プリント、観察〕		他者と考え方を交流し、いろいろな見方や感じ方、発想の仕方や知識等を学び取り、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わう。 〔学習プリント、発言、観察〕	
		【Aの判断の例】 他者の発表を聞き、多様な見方を積極的に認め、まとめようとする。	【Cへの手だて】 他者の発表から新たに分かったことなどを書かせる。	【Aの判断の例】 他者の発表を意欲的に聞き、多様な見方を積極的に認めることができる。	【Cへの手だて】 他者の発表から新たに分かったことなどを具体的に挙げさせる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

提示された美術作品を自由な感性や想像力を働かせて鑑賞し、特に自分が興味・関心を持つ作品を選ぶとともに、その作品について新たな発見や課題をもつことができる。

(2) 本時の指導構想

本時は題材の導入部分に当たる。そのため楽しみながら鑑賞活動に取り組みせたいと考えている。ほとんどの生徒が美術館に行ったことがないということから、純粹に鑑賞をする空間をと考えて場の設定をした。はじめに作品名や作者名を確認させ、鑑賞する作品に興味を持たせたい。次に、すべての提示作品を鑑賞し、それぞれの作品から感じたことや印象などについて考えさせる。発表の場では、自由に感想を述べさせることで多様な考え方に触れさせ、作品鑑賞の視点を集められるようにしたい。そして、より深く鑑賞するための作品を選ばせ、学習プリントにまとめながら自分の感じたことや印象について考えさせて、次回の学習につなげていきたい。今回の授業で感じた事、考えた事を土台として今後の学習を進めていくため、生徒の作品に対する自由な感じ方、見方を十分に引き出せるように、また迷っている生徒には作品鑑賞の視点を与え、支援していく。

この授業を通して、自分の感じ方、見方に気付き、多様な視点があることを知ってほしい。また、作品に思いをめぐしたり、作品への理解を深めて鑑賞することの楽しさや大切さに気付いてほしいと思っている。

(3) 本時の展開

段階	時間	学習内容	学習形態	指導上の留意点 評価について
導入	5分	<p>1 題材の学習内容の確認</p> <p>2 本時の学習内容と目標設定</p> <p>感じたこと・考えたことを大切にしながら、鑑賞を深めたい作品を選ぼう。</p>	一斉	<p>学習の意欲付けとなるように作品を教室に展示しておく。これから学習する事について話し、鑑賞を深めるための学習であることを理解させる。</p>
展開	40分	<p>3 作品名、作者名の確認 ・作品名、作者名を確認する。</p> <p>4 鑑賞 ・作品について友だちと話し合いながら、4点の作品を鑑賞する。 ・気になる作品を決めておく。</p> <p>5 感想の交流 ・4点の提示作品から、気になる作品について感じたことや考えたことなどを発表し合う。 ・なるほどと思った感想などを簡単にメモしておく。</p> <p>6 作品選択 ・より深く鑑賞するために、特に興味を持った作品を1つ選ぶ。 ・鑑賞 で選んだ作品と同じものでなくてもよい。</p> <p>7 学習プリントの記入と鑑賞 ・作品選択の理由や発見したこと、不思議に思ったこと、作品の印象のもとはどこにあるのか、等について、改めて鑑賞しながら学習プリントに記入する。 ・選んだ理由や知りたいと思ったことについて発表する。</p>	個人 一斉 個人	<p>間違えておぼえていた作品名などを挙げたりしながら、正しい名称の紙板書や作者の顔写真を提示し、生徒がこれからの鑑賞に興味を持てるようにする。</p> <p>作品について友だちと話しながら鑑賞してもよい。感想交流のために気になる作品の順番を決めておくように指示する。 板書で、作品鑑賞の視点を与える。</p> <p>作品毎に感じたこと、思ったことなどについて発表し合う。なるほどと思った感想や考えは簡単にメモさせる。他者の発表を聞くことで、様々な作品の感じ方があることに触れさせ、作品鑑賞の視点を集められるようにする。違う考え方、感じ方がたくさん挙がるように補助的な発問を準備し、活発な話し合いができるように支援する。</p> <p>関 提示された美術作品から特に興味を持った作品を選び、鑑賞することを楽しんでいる。(6・7) 鑑 鑑賞から、自由に感性や想像力を働かせて多様な表現のよさや美しさなどを味わっている。(6・7) より鑑賞を深めるために、特に興味を持った作品を選ばせる。自由に作品を選択することで、楽しみながら気に入った点などが明らかにできるようにさせたい。学習プリントに記述できない生徒には、個別指導で自分の考えていることに気付かせるようにする。学習プリントを書かせることにより、自由によさを感じることに加え、更に鑑賞を深める要素があることに気付かせる。自分の考えに加えて、感想交流で得た視点もヒントにししながら、感じたこと・気付いたことを整理させる。選んだ理由や知りたいと思ったことについて発表し、今後の学習を確認する。</p>
終末	5分	<p>8 学習の振り返りと自己評価 ・本時を振り返る。 ・自己評価カードに記入する。</p> <p>9 次回の学習内容を確認する。</p>	個人 一斉	<p>全体への意欲付けとなるように、話し合いや鑑賞などの本時の学習について助言する。</p> <p>次回学習への意欲付けとなるようにする。</p>

(4) 板書計画

「名画のささやきを聞こう」

感じたこと・考えたことを大切にしながら鑑賞を深めたい作品を選ぼう！

顔 1	顔 2	顔 3	顔 4
作者名	作者名	作者名	作者名

鑑賞 …… 自分の感想と様々な見方

この作品が好きだ。

こんな印象をもった。

様々な視点

鑑賞 …… 感想を深めよう。

・この作品を選んだ理由

・作品から受けた印象 なぜそう思ったのかな

・作品についてもっと知りたいなと思ったこと

・こんなことに気が付いた！

(5) 場の設定

